ビジョン(日指寸社会像)ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会

人には、たくさんの可能性があります。しかし、環境や周囲の人との関係性のなかで可能性が閉ざされ、本来持っている自分を発揮できない若者に出会うことも多くありました。

そんな背景から、「自ら這い上がって立ち直れる」という意味でなく「周囲の人の手を借りて、自分なりの一歩を踏み出せる」という意味を込めました。

生きていくなかで嬉しいことも辛いこともありながらも、「まあ、これからも大丈夫かも」と思えるような。

それが、"自分の未来に希望を持てる"ということだと思っています。わたしたちは、若者がどんな境遇にあったとしても自分の未来に希望を持てる社会の構造をつくります。

ミッション (D×Pが成すべきこと)

17-15世代12BM

セーフティネットと機会提供を

ユース世代は13-25歳までの若者のこと。大人のようにも見えるユース世代ですが、実は経済的資本などの使えるリソースや選択肢が大人たちよりも限られています。少子高齢化社会でユース世代の意見は反映されづらく、彼らに必要な公的サポートが後回しにされやすい状況です。自分の未来に希望を持てるかどうかは、本人の家庭環境や経済状況に左右されやすくなります。経済的困難・中退・不登校・虐待・無業…などさまざまな困難が組み合わさると、選択肢の限られるユース世代は、たちまち立ちゆかなくなります。自らの境遇に左右されずに「この先も大丈夫かも」と思うためには、健康で文化的な生活と、ひとりひとりが一歩前に進めるような機会が必要です。

D×Pは、困難な環境下にあるユース世代にセーフティネットと機会を提供します。ユース世代が今いるところに自らの足でおもむき、公的機関だけでは補いづらい、民間によるセーフティネットをつくります。自分たちだけで解決しようとせず、世の中にすでにある多様な機会(人、企業、地域)を活かし、つなげます。世の中にまだない機会は、D×P自らつくります。



ロゴに込めた思い

「可能性も困りごとも両方を見つめ、ひとりひとりの若者に関わっていく」という決意を込めて。明暗のグラデーションを持ち、ともに未来へと進んでゆくイメージを伝えるために夜明け空から2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行ない、社会的インパクトを出す」ことを、線の中央はユース世代と社会をつなぐ「結び目」を表現しています。このロゴマークは、2016年に制定されたロゴを元に、D×Pの活動領域の変化・ブランドイメージの変化に合わせて2021年にアップデートしました。



〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町1-27 ファラン天満橋33号室

- info@dreampossibility.com
- $\\ \textcircled{m} \ \ www.dreampossibility.com}$
- **y** @npo_DxP
- www.facebook.com/npodxp

銀行	ゆうちょ銀行 〇九九店 当座 0332445
	楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724
理事	今井紀明/塩田陵/村中直人/入谷佐知
監事	毛受芳高
アドバイザー	辻由起子/田中宝紀/浅見清夏
顧問弁護士	高橋健
	1-3 (1-9 KZ
写真	西川優介
デザイン	雪崩式

月額寄付 サポーター 募集中! 月**1,000**円からの月額寄付で D×Pの活動に参加できます。



D×Pへ寄付していただくと、

最大約40%のお金が戻ってきます!

月**1,000**円のご寄付を1年間すると、 最大約**5,000**円の控除

D×Pは、大阪市から認定を受けた「認定NPO法人」です。 認定NPO法人へのご寄付は、税控除の対象となります。 地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。 詳細については、各自治体にお問い合わせください。



D×Pと、ひとりひとりの若者をご支援くださっている皆様へ 感謝を込めて。



2022-23



活動報告書 2022-23







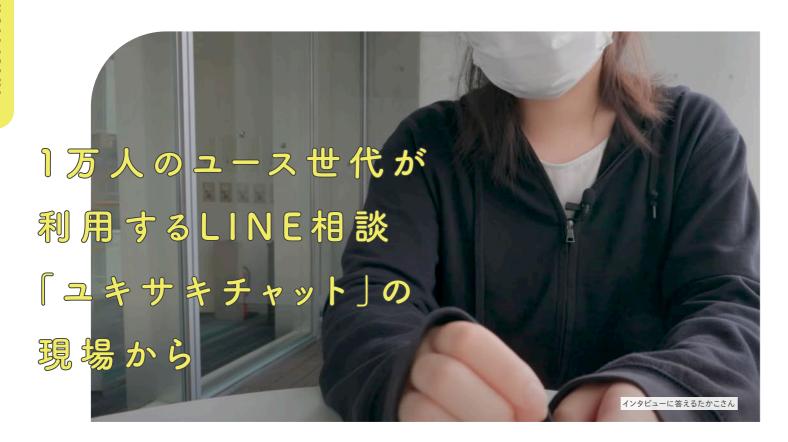












めぐみさん(23歳・仮名)は18歳の頃に家を出てから、1人で生計を立ててきました。 2021年は緊急事態宣言が繰り返し出されていて、働いていたお店では休業も多かったといいます。 お金の不安は抱えていたものの、自分でやりくりして生計を立て現金給付は受け取らずに過ごしました。

正直…なんかもう、流産でもしてほしいとか思っちゃったり

翌年の夏に、元パートナーとの妊娠が発覚します。もともと、気圧の変化で 吐いてしまうなどの体調の波があっためぐみさんは、妊娠に気づくのが遅れてしまったそうです。気がついたときには「産む」という選択肢しかありませんでした。

「ちょうど23週とかに気づいて。どうしたらいいかわかんないから、ずっと 泣いてましたね。不安しかなくて」

「妊娠して働けなくて、生活がちょっときつくて。それに、コロナの影響とかで求人自体が結構減っちゃってて。妊娠中でも働けるみたいな求人もなかなかなくてって感じで、(ユキサキチャット)に相談しました」

元パートナーと別れた理由も暴力気味で、モラハラ気質な彼と一緒にいられないと感じたから。「頼りにならなかったし、絶対に一緒に生活したくなかったんです」

母は、過保護で過干渉気味で、厳しくて

めぐみさんは、18歳のときに東京に移り住みました。最初の半年ほどは友だちの家に住んでいて、家出同然でした。

「母は、過保護で過干渉気味で、厳しくて。最近よく、毒親とかいうじゃないですか、あれの典型的な感じ。中高生ぐらいから気づき始めるじゃない

ですか、ちょっとうちって違うな?とかそういう。そこからしんどくなっちゃって。カッとなりすぎると、部屋を荒らされたりとか、包丁を向けられそうになったりとか。一緒に住むのはよくないなと思って。距離を置いた方が変わることもあると思うんですよね」

その後、めぐみさんは大学進学を機に実家を離れることに。

「大学には進学したんですが、ちょっと鬱っぽくなっちゃって。その、退学届も勝手に出されちゃったんですけど、親に。自分で休学費用を出して休学してたんですが、その間に勝手に出されちゃって。それで実家に戻されて。1週間ぐらいで私が無理になっちゃったんです。家を出て、そっからずっとこっち(東京)なんです」

ゼリー系のものとか多めに送ってもらって



妊娠に気づいためぐみさんから、ユキサキチャットにメッセージが届きました。状況を聞き、すぐにごはんを送りました。

「(ごはんは)だいぶ、助かりました。途中からやっぱ体も重くなってくるし。 買い物とかにも行けなくなってきて、ひどいときはつわりも。それこそ、いま コロナかかったら大変だしって思って。固形のものを食べられなくなった り、切迫(早産)気味で立って家事もできないときがあったので、ぱっと食 べられるゼリー系のものを追加で送っていただいてました」

※切迫早産: 予定日より早く赤ちゃんが生まれそうな状態。週数が早ければ早いほど、赤ちゃんに後遺症が残る・死亡する確率が高くなります。早く生まれないように医師から安静を求められます。

自分では判断が難しいこととか、 やっぱ聞いてほしいなって思います

出産を終えためぐみさんは、赤ちゃんと暮らすための環境を整えている最中。もともとは養子に出すことを考えていたそうです。

「お迎えの支度もできていなかったから、妊娠中から関わっていたソーシャルワーカーさんと話して、いまは乳児院で預かってもらっています。その間に仕事を決めたりして」

ソーシャルワーカーとは、めぐみさん自身が相談できる場所を探してつながりました。

さまざまな場所に自分で相談してつながっていっためぐみさん。「ユキサキ チャットやいろんな相談の場を頼ってよかったと思うことはありますか?」と 尋ねてみました。

「養子に出すってなったら周りにも言えないから隠してたんで。ちょっと聞いてもらっただけでも軽くはなりました。金銭面とかそういう話って、身近な友達の方が相談しづらいと思うんですよ。やっぱ、どう思われるかな?とかそういうのもあるだろうし。周りは結局、同じくらいの年の人しかいないから自分より大人に聞いてほしいなみたいなのもあると思う。社会的に20歳を超えたら大人と言われることもあるけど、まだまだ考え方とか子どもな部分もあるから。自分では判断が難しいこととか、やっぱ聞いてほしいなって思います。そういう点で、ありがたいなと思いました」

たかこさん(仮名)は20歳。親との経済的なトラブルがきっかけでユキサキチャットに相談がありました。 卒業が目前の3月に高校の学費が払われていないことがわかったそうです。 さらに、決まっていた大学への入学もなくなってしまいました。

大学に行けなくなった。どうしよう

「卒業に向けての試験も全部終わったときに担任の先生に卒業できないんじゃないか的なことを、ニュアンスを濁されて言われたんですよね。ショックで。みんな進路とか決まってる状態で自分だけ合格した大学に行けなくて。30万円の高校の学費の支払いもまだ残ってて、そのときはもう何にも…今後どうしようみたいな。家に帰って大泣きして"(大学に)行けなくなった。どうしよう"って。その後、大学進学しませんっていう書類を出して」

2019年 ~ 2021年まで

高等学校卒業

→ 2019年から独立行政法人が始めた「日本学は後機権

奨学金制度」に申し込みをした。

* 学養未納(約30万円)の下の、卒業証書を置うことが

当時のたかこさんのメモ

インタビューを受けるにあたって、これまでのことをまとめたメモを見せてくれました

たった2万しか手元に来なかったのが悔しくて。家出を考えるようになりました

たかこさんは学費を払うため、求職活動を始めました。アルバイトが決まりますが、給料の大半が母親の元へ。

「初お給料が来て、通帳の振り込みだったんですけど。6万円入ったお金の

うち、(私の)手元に来たのが2万だったんですよ。で、残りの4万は、うちの 母親が取ってっちゃったんで。こんなに頑張っているのに、たった2万しか、 手元に来なかったのが悔しくて。家出を考えるようになりました」

たかこさんは今後の生活を考えたときに、生活保護が受けられるか疑問でした。助けてくれるところがないかと思い、ネットで調べたら「ユキサキチャット」が出てきたそうです。

「ここに相談してみようと思って。すごい長文で送ってたので、相談に乗ってくれるかな?って思ったり(しました)」

誰かに相談するってすごく怖くて

ユキサキチャットはたかこさんからの相談を受けて、食糧支援や現金給付を実施しました。

「病院に行くのにも、お金を給付してくれたりとか、食糧とか送ってくれて。 一番…生理用品とか助かったし。服もほとんど売ってしまって手元になかったので、服とかも(助かった)。こういう風に何かしらの援助をしてくれるのは、ありがたいです。本当に」

「(ユキサキチャットに)関わらなかったら、恐らく死んでたかもしれないし。 誰かに相談するってすごく怖くて。(このインタビューで)私はこういうこと があって、でもこういうことで解決しましたっていう、(今困っている人への)道しるべになればいいかなみたいに思ってて」

1

街中アウトリーチ事

大阪には、居場所を求める若者が集まる通称グリ下(道頓堀のグリコ看板の下)があります。

繋華街にたどり着く若者はこれまでの複数の大人との関わりを通して傷つき、

不信感を持っているため、福祉的な支援に対してあきらめにも近い気持ちを抱いています。

そのため「夜の街」が居場所のない若者のセーフティネットになっています。

一方で、繁華街においてさまざまなトラブルにも遭遇しています。

2022年8月より月3、4回、グリ下の近くに若年層が自由に使えるフリーカフェを試験的にスタートしました。 お菓子や飲み物、生理用品やコンドーム等の無料配布を行ないながら、新しいつながりをつくります。

インスタグラムで つながり DMで個別相談に 応じました。

のべ利用人数 **678**名 利用実人数

飲食提供数

953個

22₂

SNSのDMでやり取り

114₂

継続的にフリーカフェを開催し、若者と関係性を築くことができました。 2022年12月から個別対応が増えました。

個別面談実施

病院への同行

公的機関との連携

民間との連携

27_□

7_件

性病や妊娠不安の相談を受け. 提携先の医療機関に同行。 諸事情のある若者に対しては、 診療費等をD×Pが代わりに 支払うこともあります。

1件

※弁護十

活

動











「ふつうの人生が良かった」 関わるなかで見えてきたこと

出会う若者からは、家庭や学校で否定され、裏切られた経験をよく聞きます。 公的機関に保護された経験を持つある若者は、

「髪の毛を黒に戻された」「ピアスも外された」「スマホが使えなくなる」と話していました。

公的機関は彼らの保護にあたって力を尽くしていらっしゃいますが、

彼らが求めるものと制度やルールとの間でズレが生じることがあり、 若者から見ると「中途半端に関わり、何もしてくれなかった」「もう保護されたくない」

と感じる経験となっているようです。

ある若者は自分について話したあと「ふつうの人生が良かった。学校行って 友人関係に悩んで~みたいな、ふつうの人生」と笑っていました。

彼らにとって、支えになるのは自分と似た経験を持つ友人です。

大阪府内外から居場所を求めてやってくる若者がいます。

集まる若者間で仕事の紹介やお金のやりとりをし、支払いのために無理にお金を集め お酒や薬の大量接種(OD)で記憶を飛ばしてなんとか過ごしている現状があります。

そんなグリ下界隈に集まる彼らに対して、自分たちには何ができるのか?を 常に考えながら、D×Pのスタッフは日々奔走しています。

D×Pが目指すのは、繁華街に新たなセーフティネットをつくること。 ひとりひとりの困り感を受け取り、一緒に悩み、人として尊重される経験を たくさん届けていきたいと思っています。

新規事業部マネジャー 野津

2023年度の街中アウトリーチ事業

「ユースセンター」をミナミに。

これまで出会った若者のなかには、好きなことや興味があることを持っている人もいます。 しかしフリーカフェはテントでの活動のため、やってみたいことを実施することが難しい状態でした。 またフリーカフェ事業を実施するなか、観光地でテントを立てることにもさまざまな意見が聞かれています。 繁華街に集まる若者のニーズに合わせた新しい拠点をミナミにつくります。

ユースセンターは 3つの機能を 持つ見込みです

困りに応じた

サポート

医療、宿泊、お金、仕事など 必要な支援につなぎます。 「温かいご飯をだれかと一緒に食べれた」 「安心して眠れた」など 人として尊重される経験を得られる場に していきます。

交流が 生まれる機会

彼らのやってみたいことを応援し、 表現できる機会をつくります。 見守る大人がいるなかで、 安心して他者と関わる きっかけをつくります。

若者の声を聞き、 共につくる

若者の声を聞き、 ユースセンターの運営を 若者とスタッフが一緒に決められる 仕組みをつくります。 できる場にしていきます。

オフラインの取り組み

定時制高校のなかで10代と出会い つながる取り組みです。

コンポーザーの参加人数

延べ246名

関わった生徒数

果数 158名

_{延べ}1,259_名

(クレッシェンド5校・居場所3校で関わった生徒・参加したコンポーザーの合計)

クレッシェンド

定時制高校で実施する独自プログラム。高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業です。ひとりひとりに寄り 添いながら関係性を築き、人と関わってよかったと思える経験をつくります。学年ごとに内容が異なり、2年生・3年生は進路や卒業後を 考える機会をつくります。通信制・定時制高校にはさまざまな事情を抱えた高校生がいます。経済的に苦しかったり、不登校経験があっ たり、発達障害・学習障害を持っていたり、過去の経験から人間不信になっていたり、外国にルーツがあって言葉にハードルがあったり。 そういった事情により、中退・卒業など学校を離れたタイミングで孤立しやすく、課題を抱えやすい状況になります。進路未決定で卒業す ると所属先を失い、より人とつながりづらい状況になります。

生徒と関係性を築き、その後の関わりをつくる

高校の「総合的な学習の時間」などの授業の枠組みでクレッシェンドを行ないます。学校に通い授業を受けることで、サポートが必要な 生徒に出会いやすい状況をつくっています。クレッシェンドを通して関係性を築いていくことで、居場所事業の来室や仕事体験ツアーへの 参加、生徒の好きなこと、興味関心から新たなプログラム実施へとつながっています。



コンポーザーは過去の経験や自分の考えをきっ かけに生徒と対話します。話を聞くことで「こんな ます。自分の家庭や学校に対する気持ちを打ち明 けた生徒もいました。



書くことや話すことが苦手でも参加 しやすいゲームで簡単な自己紹介を します。お互いのことを知り、一緒に 4回の授業を進めてもいいと思える 関係性をつくります。

CASE 1

1年生のAさんは入学してから数ヶ月間、クラスに友達がおらず先生とも会話 がほとんどない状態でした。そんな中、Aさんはクレッシェンドの最終回で初 めて参加しました。スタッフやコンポーザーと絵を描きながら関わり、好きな ことや家族のことなどをお互いに話しました。プログラムの終盤になると、 「最後にハグしてもいい?」「居場所事業に行きたい」と話しました。その後、A さんは居場所事業に来室し、学校や趣味の話をしながら継続して関わってい ます。同じクラスのBさんと仲良くなりたいと話していたので、一緒に交えて関 われる機会をつくりました。

CASE 2

スタッフがアルバイトをしているかをCさんに聞くと「やりたいんです」と話し ていました。スタッフや同じグループにいた他の生徒が、おすすめのアルバイ トやしんどかったアルバイト、これまで経験したことについて話すと、Cさんは 「めっちゃ参考になった」と話していました。Cさんはクレッシェンド終了後もア ルバイトについて考えている様子だったので、スタッフから、アルバイトを探し てみることや、仕事体験ツアーに参加できることを伝えました。早めにアルバ イトを始めたいと話していたので、進路担当の先生がアルバイト探しのサ ポートをしてくれることを伝え、生徒は進路担当の先生に相談をすることにな りました。

クレッシェンドで出会った人と

関わって良かったと思いますか?



2年生授業後アンケート

クレッシェンドを通して、 いろいろな生き方や進路に対する 考え方を知れたと思いますか?



居場所事業

週1回、居心地の良い空間を学校のなかにつくります。コンポーザー、地域の方などが訪れ高校生が定期的にさまざま な人とつながることができる場でもあります。スタッフは、日々の会話から困りごとを拾いサポートにつなげ、生徒が卒 業した後も社会のなかに居場所がある状態を目指します。

ひとりひとりの興味関心に合わせた機会をつくる

学校の玄関での声がけや、学校独自のプログラムにD×Pスタッフが参加するなど、生徒と関わる機会 を増やしました。ある大阪府内の定時制高校では、D×P史上初めて、在校生全員と接点を持つことが できました!これは入学式後に居場所事業の説明をする機会をいただくなど、先生の協力もいただい て実現しています。出会った生徒の好きなことや興味感心に合わせて企画を提案したり、お正月やクリ スマスなどの文化に触れられる機会や新しいことに出会える機会をつくったりしました。



食べ物を配布することで、相談事がなくて も訪れやすい場をつくっています。この日 は地域の飲食店のお弁当。エビフライが 入っている時も!お店の方が生徒に直接 手渡しすることもあります。

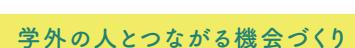


イラストが得意な生徒。「いごこち诵信(居 場所事業のお知らせ)」に絵を描いてみな い?と声をかけると、素敵なイラストを描き



クリスマスツリーの飾り付け& オーナメントづくリ

コンポーザーのつーじーは、普段は製造 オペレーターをしています。パソコンの組 み立てに興味がある生徒がいれば一緒 にやってみようと、ゲーミングパソコンを 組み立てる企画を実施しました。



仕事体験ツアー

ひとりひとりの希望や状態に合 わせた職場見学や仕事体験で す。自分の生き方についての考え や什事に対する理解を深め、自 身が納得のできる進路を選んで ゆけることを目的としています。 アルバイトや企業見学も含め5 名が参加しました。

どちらかと言うと

当てはまる

83.3%



CASE 3

2年生のDさんはこれまでアルバイト経験がなく、 どんなところが自分に合うか試してみようとカレー 屋の仕事体験ツアーに参加しました。事前の打ち 合わせでは、接客はいやと首を振っていましたが、 体験の時間になると、接客をやってみようと、来店 したお客さんに席の案内をし、オーダーを取るこ とにもチャレンジしました。仕事を終えると「今回 あまりうまくいかなかったから、接客をやってみた い」と話していたため、その後一緒にスタッフとア ルバイトの見学に行きました。

居場所事業アンケート

ある大阪府内の定時制高校で入学時より3年間利用した生徒の年度末アンケートの結果を比較しました。 「当てはまる」と回答をした生徒の割合に変化があり、継続した関わりによる成果が見られました。

居場所を通して、 話ができる大人が 増えましたか?

居場所を通して、 進路や仕事に対して 前向きになれましたか?

どちらかと言うと 当てはまる 100.0%

Highlights

2022

登録者数 10,447 2,574 %

相談者数 **4,937**名 **1,487**章

食糧支援・現金給付

64,560_♠

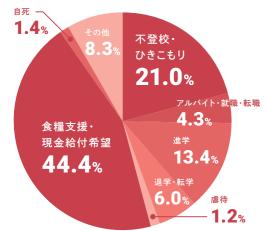
[≜] 23,910,000_円

^{支援人数} 420名



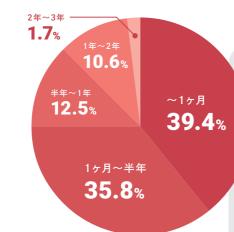






相談対応を継続している期間

※2022/4/1~2023/3/24 の期間 1回以上本人からユキサキチャットに連絡があった方の合計値



CASE 4

Dさんは家族に頼れないため自身の学費と生活 費をアルバイトで稼ぎながら大学院で学んでい ます。2022年の春、学費が支払えず退学となる 可能性があると相談がありました。体調もよくな いなか、2週間スープで過ごし3キロ痩せたとの こと。すぐに現金給付と食糧支援を実施しまし た。相談当初は体調を崩していましたが、食糧を 届けてから「だんだん良くなった」と話していまし た。支払えなかった学費もDさんが学校で手続 きし減免に。Dさんが修士論文を進める間も食 糧を届け、無事に大学院を卒業。その後の就職 も決まりました。(20代/大学院生)

食糧支援・現金給付のニーズが高い一方で、不登校の相談も昨年度より増えています。 約半数の相談者が1ヶ月~1年間の長期に渡ってやりとりしています。 ユキサキチャットは相談者の望む状態を聞きながら、

生活安定に向けて並走しているため長期の関わりを持つ傾向にあります。

ユース世代への情報発信

街頭広告やSNS広告など、ユース世代に届く発信の形を模索 しました。

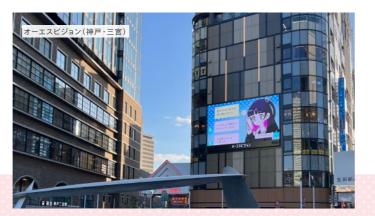
若年層が集まる6都市の繁華街(札幌・新宿・名古屋・難波・ 神戸・天神)でアニメーション広告を放映しました。



YouTubeで見る



キャッチーなアニメーション広告でユース世代に訴求



510名



長期食糧支援(6ヶ月以上)が 60 終了した若者の状況

6ヶ月以上食糧を届けた若者は109名でした。経済的な事情 で、学校の退学や休学を考えている方もいました。サポートを した約半数の方が「食糧支援を受けながら学業を継続できて いる」と回答しています。

長期食糧支援は食糧が確保できることで、まずは生活への安 心感を得ることできます。ユキサキチャットでは生活の土台を 整えながら、学業継続や卒業までを一緒に考えてサポートし ています。

長期支援で 生活を支える

2021年末に行なった「年末8万円給付」の給付状況を踏まえ、長く若者をサポートできるように現金給付・ 食糧支援の枠組みを見直しました。心身の不調や、家族の介護、学業や就職活動などによって就労が難し い場合、一時的な現金給付や食糧支援では生活を安定させることができません。2022年度は、最大15ヶ 月間支える「ユキサキ支援パック」を始めました。

CASE 5

Eさんは祖父の介護をしながら学校生活を送ってい ました。Eさんの祖父は夜に起きることがありEさんが 横について深夜もよく一緒に起きていました。介護 をしている中で涙が止まらなくなる、学校にいけなく なるなど鬱を発症しました。アルバイトもできない状 態のため、現金給付と食糧支援を実施しました。継 続的にLINEでも会話を続けて、「返信がちゃんと 返ってくるのも嬉しかった」と話していました。プログ ラミングと動画編集をやりたいとパソコン給付も行 ない、この春に大学進学します。(10代/高校生)

CASE 6

シングルマザーとして、2人の子育てをしている Fさん。ご自身の食事を我慢して子供に回しな がら生活をしている状態でした。仕事をしなが ら子育てをする生活でしたが、職場でのパワー ハラスメントで精神的にしんどい状況となり離 職しました。ユキサキチャットでは現金給付、長 期食糧支援と、使える制度や相談機関の紹介 を実施。Fさんは制度を活用して生活費を確保 していき、4月より職業訓練に通うことが決定し ました。(20代)

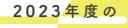
ユキサキ支援パック











ユキサキチャット

一時的に行なっていた25歳まで の支援を恒常的に実施

2022年度に現金給付の申込があった 方のうち、約70%が20~25歳の方でし た。20代前半の若者へのサポートも手 薄のため、今後も25歳まで現金給付と 食糧支援を実施します。

データー元化で 相談対応強化

ユキサキチャットではLINEのAPI連携シ ステムを使っていますが、自動化できる ものを手動で行なう業務があり非効率 な状態です。今後は新システムを導入 し、データを一元化します。

LINE以外のプラットフォームでの 相談を受けられる体制づくり

LINE以外のSNSプラットフォームを 使っている若者もいます。他のSNSでも ユキサキチャットの相談を受けられる体 制をつくります。

たくさんの方に支えていただきました。

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

D×Pが、ユキサキチャットでの相談や食糧支援・現金給付支援が実施でき、大阪ミナミ繁華街での新規事業に取り組めるのは、 ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

株式会社蒼江 ^{西尾伸介様}	salesforce 株式会社セールスフォース・ジャパン	RSTC リツアンSTC 株式会社リツアンSTC	一般社団法人 積翠	日本寄付財団 一般財団法人日本寄付財団	赤い羽根共同募金 ^{対地の干さらの組はのための数域} 社会福祉法人大阪府共同募金会
村田規子様	オナ 上 貝 団 The Murakami Family Foundation 一般財団法人村上財団	山田安廣様	Live Like a Cat	畑中洋亮様	QES ミチをひらいてカチを 株式会社QES
大塚雄三様	FELISIMO 株式会社フェリシモ	(bj group BJ	大和証券グループ本社 大和証券グループ役職員一同	金属アルルギー科はアクセサリーハーフ側下ショップ のようなのでは、アップアルル は できまれる は できままる は に できままる は できままる は に に できままる に に に できままる に に に に に に に に に に に に に に に に に に	公認会計士 渡邉淳事務所 _{渡邉淳様}
BEAUTY NAILER。 株式会社ビューティーネイラー	(F) Fujinetsu 不二熱学工業株式会社	SAKURUG 株式会社SAKURUG	KonMari KonMari Media Japan株式会社	emiria EMIRLAWIZ 株式会社voyage	VENA ENERGY ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社
SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM	宗教法人 寳松院	山上義人様	草力フェ ^{髙島弥寿子様}	木暮太一様	小林明子様
高橋知裕様	杉山大樹様	地守亮様	株式会社 山本真司 事務所	茨賢会 IBAJINKAI 医療法人社団英腎会	能西耳可 KUMANISHI FOUNDATION 公益財団法人熊西地域振興財団
酒井伸一郎様	小田玄紀様	パートポケット倶楽部 花王ハートポケット倶楽部	藤﨑まり子様	野澤澄也様	立川直美様
Jeane	永田勇貴様	駒井亨衣様	RayCrew 株式会社レイクルー	Johnson Johnson FAMILY OF COMPANIES IN JAPAN ジョンソン・エンド・ジョンソン 日本法人グループ	Japan Parking Service 最式合社 日本駐車場サービス 株式会社日本駐車場サービス



2,843₄

個人の月額寄付 サポーターは2,738名、法人は105件とたくさんの方に支えていただきました。 単発では3,660名の方にご寄付をいただきました。「生きづらさを抱えている10代の子どもたちに とって選択肢や頼れる大人が増えることを、心より応援しています」「当たり前の最低限の生活す ら難しい、そんな10代の子供達が沢山いる事に衝撃を受けました」「一緒に未来を作りましょう!」 とご寄付とともにさまざまなメッセージを寄せていただいています。

2022年度活動計算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

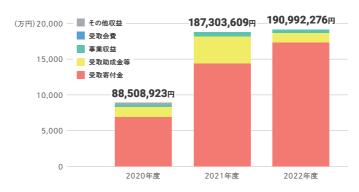
科目		金額(単位:円)			
		前期 (2021年度)	今期 (2022年度)		
経常収益	受取会費	60,000	75,000		
	受取寄附金	143,712,335	174,164,724	1	
	受取助成金等	37,741,100	12,625,577	2	
	事業収益	5,666,130	3,805,481	3	
	その他収益	124,044	321,494		
経常収益合	t t	187,303,609	190,992,276		
経常費用	(1)事業費				
	給料手当/法定福利費	51,283,920	74,483,792	4	
	福利厚生費	27,837	245,769		
	旅費交通費	1,746,196	3,556,109	5	
	消耗品·備品費	282,069	666,740	6	
	賃借料	2,257,118	2,505,849		
	通信費	3,126,532	3,510,933	7	
	印刷製本費	815,523	650,147		
	謝金	22,000	2,165,000	8	
	業務委託料	9,793,487	14,194,471	9	
	広告宣伝費	1,603,539	4,432,399	10	
	支払手数料	6,124,049	8,328,478	11	
	会議費	457,569	653,200		
	給付支援費	39,857,566	37,394,036	12	
	減価償却費	416,463	1,207,750		
	その他	935,518	1,643,690		
	事業費合計	118,749,386	155,638,363		
(2)	(2)管理費				
	給料手当/法定福利費	11,045,264	10,903,401	13	
	その他	6,548,766	7,232,896	14	
	管理費合計	17,594,030	18,136,297		
経常費用合計		136,343,416	173,774,660		
当期経常増減額		50,960,193	17,217,616		
経常外収益		0	0		
経常外費用		0	0		
税引前当期	正味財産増減額	50,960,193	17,217,616		
法人税、住民	税及び事業税	70,498	70,520		
当期正味財産増減額		50,889,695	17,147,096		
前期繰越正味財産額		11,116,035	62,005,730		
指定正味財産増減額		0	0		
一般正味財産増減額		0	0		

※今年度はその他の事業を実施していません。

次期繰越正味財産額

経常収入内訳 3期比較

62.005.730



※ 紙面の都合上掲載できませんでしたが、すべての勘定科目別に表記されている 活動計算書(P/L)、貸借対照表、財産目録、そして監査報告書は D×PのWebサイトに開示しております。合わせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、 認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。

監事 毛受芳高(一般社団法人アスバシ)

会計監査 公認会計士 大磯毅 (株式会社わかば経営会計)

1 2021年度より約3,045万円の増収となっています。うち約9,090万円が定期的なご寄付です。月額寄付サ ポーターは 2,462名→2,843名となり多くの皆様に支えていただきました。一方、物価高による経済状況の 悪化により月間退会者数の平均は2022年度21.3人(昨年度15.4人)に増えています。

2 一般財団法人 日本寄付財団様、神戸市様、社会福祉法人 大阪府共同募金会様、いのちと心を守るSOS基 金様、積水ハウスマッチングプログラム様、公益財団法人 熊西地域振興財団様、大阪労働局様などの助成 金・補助金が含まれています。

事業収益

うち230万円は大阪府および京都市の高校内での居場所事業を受託したものです。定時制高校の統廃合 のため、京都市での事業実施は2022年度が最終年度となりました。また、約150万円は若者の現状を伝え る講演活動やユキサキチャットや事務局における運営ノウハウをお伝えする勉強会等の収入となります。

給料手当/法定福利費

2022年度も全職員にベースアップを行なったこと、新規事業の立ち上げや相談数・食糧支援数の増加にと もない人員数を大幅に増やしたため、昨年度より約2,320万円増額しています。皆様からいただくご寄付の 4 多くが、給料手当・法定福利費に充てられています。特に、滞納や借金、精神疾患・妊娠・性病の心配があるな どの複合的な相談を多数受け取り、職員に幅広い専門性と業務遂行能力が求められるようになりました。2 年連続でベースアップを行ないましたが、目標としている大阪府の平均給与のレベルには達しておりませ ん。職員の待遇改善は経営課題です。

(5) 昨年度より約180万円増えています。新規事業実施により移動が増え、相談者と一緒に役所やハローワー クなどに行って手続きを行なう同行支援も増えたためです。一方、コロナ前の2019年度は約856万円で す。在宅勤務と出社の両方を組み合わせて勤務する職員が多く、引き続き交通費は少なくなっています。

新規事業実施にともなってテントや椅子、クーラーボックスなど必要備品を多数新規購入しました。また、効 率的に食糧支援の発送作業ができるよう事務所を拡張したため必要備品の購入費も増えています。

7 うち約250万円が食糧支援にともなう発送費です。また、新規事業の創設・ユキサキチャット事業部の増員 にともなってWi-Fi代・携帯電話代などが増えました。

(8) インターン生への活動支援金は人件費に入れていましたが、有償ボランティア謝金としての取り扱いが正し いため、2022年度から勘定科目を「謝金」に切り替えました。そのため増額しています。その他講師謝金や

業務委託料

9 ユキサキチャット事業部の相談員の一部は、業務委託契約で相談対応を担っています。相談者数が激増した ため、相談員を増員した分委託費が増えています。

79,152,826 (15)

10 2022年度はSalesforce様からのご寄付や神戸市様からの補助金により街頭広告、LINE広告、 Instagram広告などを出しました。因り感のある若者にユキサキチャットや食糧支援を知ってもらえるよう。 引き続き広告宣伝にも力を入れていきます。

11 ユキサキチャットを運営するためのLINEと連携するAPIシステム利用料や、寄付受け取りのためのシステ ム利用料、現金給付実施にともなう振込手数料も含まれています。

若者に届けるために購入した食糧や日用品の実費や、家賃等生活費のための給付金、居場所事業で配布し 12 た食べ物代等が「給付支援費」にあたります。約3,739万円を支出しました。今年度は新たに、テントで配布 した飲食物やコンドーム、妊娠や性病相談にともなう医療機関への受診料もD×Pが負担しました。一方、多く の方がお米など現物を寄贈してくださったことで、支出を削減することができました!

給料手当/法定福利費

(3) 経理・総務・労務・法務等を担う管理部門のスタッフは2名となりました。全体のスタッフ数も増え、管理部門 の業務量が大きく膨れ上がった1年でした。次年度の2023年4月から管理部門の専任職員を1名増員、1名 育休から復帰見込みです。

うち業務委託料約231万円、支払手数料約177万円、支払報酬料約110万円、減価償却費約37万円(主に

PC購入分)などが主な支出です。会計不正防止のため複数人で実施する体制をつくるべく業務を一部代行 しているほか、専門家への顧問契約料も増加しています。勤怠管理や会計など業務を簡略化するための サービス使用料も含まれています。今年度の管理比率は10.4%です。D×Pでは、管理費は不正を防止し安 全に運営するために必要不可欠なコストと考え、引き続き必要経費を支出してまいります。

次期繰越正味財産額

約7,900万円を次年度に向けた資金として繰り越しました。

この資金と助成金を土台に、D×Pでは2023年度に大阪ミナミの繁華街にユースセンターを立ち上げ、繁華 街に新しいセーフティネットをつくります。また、ユキサキチャットでは新たに海外にルーツを持つ若者のサ ポートができるよう体制構築の準備を進めます。経営安定の指標となる自己資本比率は56%、無収入寿命 (仮に収入がゼロになっても現状維持ができる期間)は約7ヶ月分を確保でき、指標としている「最低6ヶ月分」 を満たしています。将来の緊急事態にすぐ対応できるよう十分な資金を確保しつつも、いま困窮する若者の 即時支援や来年度以降のユースセンター維持のために、引き続き不足する資金の寄付を募ります。